

学校関係者評価委員会 報告書
(平成 27 年度)

平成 28 年 10 月 26 日

学校法人国際総合学園

国際こども・福祉カレッジ

1. 開催期日

平成 28 年 10 月 26 日 (水) 18:20~19:30

2. 開催場所

ホテル イタリア軒

3. 出席者 (9 名)

(外部委員) 山崎一夫、稲田泰紀、宮崎則男、地引文貴
(本校職員) 学校長、副校長、教務部長 2 名、事務局長

4. 委員会次第

- ・開会の挨拶 (学校長)
- ・学校関係者評価委員の紹介
- ・平成 27 年度事業報告及び平成 28 年度事業実施状況報告
- ・学校自己評価の説明 (平成 27 年度の取り組みについて)
- ・学校自己評価に関する意見交換及び質疑応答
- ・閉会

5. 学校自己評価に対する意見、質疑応答

① 教育理念・目標

- ・学科、コースの多様さなど特色ある職業教育をしており、業界のニーズに対応した国家資格の取得実績や就職率も高い。今後はそのような学校としての強みを更に増やし、積極的な情報発信を行っていく必要があるのではないか。

② 学校運営

→良好である。

③ 教育活動

- ・学科の閉科や新設に伴う教員の雇用確保について
→学科間での異動を含め、要件教員充足を保っている。
- ・厚生労働省指定の養成校として、要件を備えた教員の確保はできている。
現在もこれからも教育サービスの質の確保を常に意識して、新人研修など更なる指導力の育成に力を入れていただきたい。
- ・授業評価の実施、評価体制における授業アンケートとは？

→在校生全員に対して年2回の授業アンケートを実施している。質問項目は教員の授業のやり方や学生への接し方などの他、学生自身の科目に対する取り組み等多岐にわたる。アンケートはマークシートと記述の併用である。アンケート結果は法人本部で集計し、必要に応じて教員への面談が実施され授業の質等の改善を図っている。

- ・産学連携について。現在、職業実践専門課程の各学科で実施している現場実習（企業実習）がそれに該当するが、時代のニーズに対応した社会人対象講座の充実等もぜひ検討していただきたい。

④ 学修成果

- ・社会人1年目、3年目等、離職防止などを含めた卒業生へのアフターフォローを検討することも、学校としての教育活動の幅を広げることにつながるのでは。

⑤ 学生支援

- ・卒業生への具体的な支援内容とは？
→就職後における仕事上の悩み相談や、国家資格取得に向けたアドバイスの他、奨学金返済等の相談にも応じている。

⑥ 教育環境 →概ね良好である。

⑦ 学生の受入れ募集 →良好である。

⑧ 財務 →良好である。

⑨ 法令等の順守

- ・個人情報の保護について
→毎年、学生の手引の該当ページを使って学生への説明を実施。実習指導の授業においては、実習施設や利用者様に対しての守秘義務の重要性について特に丁寧に指導を行っている。

⑩ 社会貢献・地域貢献

- ・地元町内会が津波発生時等における避難場所としてWMと協定書を交わしていることについて。新潟市内において、口頭約束だけでなく町内会と協定書を交わしている事業所は珍しく、今後も合同避難訓練と合わせて協働していただきたい。
- ・他の専門学校のイベント開催時、保育ルームでWMの学生ボランティアにとっても助けられたと聞いた。社会貢献活動として評価できる、今後も機会があれば積極的なボランティア活動や、他校との連携を期待したい。